

2018.12.15.

(1)

おい図書館

No.201

発行
代表
おおい図書館
青木 和子
松本市牧の原1-104
TEL 047-311-0886
104/416

市民講座

知と出会い人とつながる
～図書館で生まれるコミュニティ～

10月13日(土)、松戸市立図書館主催の市民講座が開催されました。

図書館からの呼掛け文には「皆さんにとって図書館はどんな場所ですか？読書するところ、何かを調べるところ、勉強するところ、くつろぐところ…図書館にはたくさん

さんの「知」、様々な人が集います。「知」と出会い、人とつながる。そんな図書館がまさにあったら、私たちのまちや暮らしは何か変わるでしょうか。このまちに暮らす皆さんで集まって、考えてみ

ませんか？」とありました。

私たち「おい図書館」からも参加してお話を伺いました。

鎌瀬容子

パネラーとして参加された伊藤純一氏（松戸市教育長）のお話が心に残りました。

市内河原塚の人々の手によって作られた「わが街河原塚」として昔の物語」という本を紹介されました。

早速、新松戸図書館で手にしてみました。松戸市教育委員会、博物館の資料をはじめ、地域に伝わる言い伝え、石碑、神社の文献、歴史が細かく書かれています。

車で走っていると、八柱から市川方面へ向かう道で谷底へ落ちて行くような感覚の坂道があり、八柱の徳蔵院裏の急斜面、さらに和名ヶ谷から紙敷への下り道に驚かされた記憶がありました。この本によってナゾが解けました。

古代の頃、ここは海だった。

その後、富士山の噴火によって火山灰が6mも降り積もりました。

この関東ローム層に、河原塚の人々は肥料(馬糞)を運び入れて開墾し、今の田畑にしていた。

春木川は四季折々美しく、シジメを取ったり泳いだり、遊びの場にもなったとのこと。

河原塚旧家の人々がこの本の作成に関わっており、屋号・家紋も一覧表にしてある。

小金原地域の「御堂の上」「表門」「殿内」など、バス停の名がこの土地の屋号であったことを思い出しました。地域の人々が次の

世代へ語り伝えて行く為の思いをこめていたのかもしれません。

人々とのつながり、地域に根差す生活が、この本には記憶として詰まっております、後世に残っていくことと思います。

誰もがそれぞれの「知る」を手にする場としての図書館を利用し、この本を読んでみませんか？



塩崎俊一

まじめに働き物質的満足を得ても、未来不安に揺らぐ「私」と家族や地域との拠りどころが希薄になつていく「共」。それを救出すべき役割の「公」も、質・量共に窮して果せない現状にある。これを果せるのが図書館の存在で、その気づかない役割と実例を考え、学ぶ。「市民講座」が10月13日開催された。市政の重要課題である「公共施設再編」でも一つのキーである図書館整備計画の実現にも

大きな一助になる事を念じる熱心な67名が参加した。

基調講演の大串夏身氏(昭和大学名誉教授)は、人がどのようなに本を活用してきたか?として、本とは何かを問い、「読む」「学ぶ」は当然として「本で調べる」を強調された。グループで手分けして調べることから活動・交流が生まれ、新しい「知」と出会いが生まれるのだと。従って、図書館は「本」の有る空間だが、過去の静読のみの空間から話し声や音が聞こえる空間へと進むべきで、図書館サービスとは本と人が出会う仕組みであると断じられた。既に佐賀の伊万里市民図書館は市民が育て地域の絆を生み出す姿であることなど、全国の公共図書館が内包する可能性の実例が次々と生まれているのは確かだ。続くトークセッションでは、

長野県立図書館の平賀研也氏から、場所によって人によってニーズの違いを自覚した上で、所角見られるのにそれを知らない人に向けて、ネット上の辞典情報や地域情報にして、みんなと共有する仕掛けなどを紹介された。本場に「ハサードマップ」の認知・活用や「新断層」の存在位置を認識できるのは、貴重な生活の知恵となろう。大串氏は、こども、「調べる」

が時代と共に変わるのは必然として、日本のデジタル化の遅れを指摘すると共に、松戸の図書館づくりは「松戸らしい」図書館を、と要望された。

また、地域自治には色んな人が関わる良い例として、伊丹市の図書館では年20にのぼるワークショップが行われていると示唆された。パネラーとして参加した伊藤教育長は、共同体の為に図書館は必要と強調され、河原塚の有志の

「わが街河原塚 いまと昔の物語」

なる河原塚史を高く評価された。

一旦頓挫した東松戸の地区図書館を先頭に、懸案の中央図書館づくりに邁進すると宣言された。

締めの括弧にはまとめとして、今は多様性の時代であるが、ボランティアの地域愛着度をベースにポイントとは「人・空間・情報」とした。

私は、改めて図書館づくりは市民参加ではなく、参画だと学んだ。

・余談その1
講座のあった日の夜、TV番組で「食と運動より図書館」が健康寿命を延ばすという放映を見た。知的刺激の効用を実証する為に山梨県を取り上げ「人口当りの図書館利用率の高さが同県健康寿命の高さと連動している。P.P.K.は地域社会の心と身体」と締め括った。

・余談その2

今、日本で一番の歴史学者と称される磯田道史氏は、人類が何万年もかかって発明・発見した事実も「文字一つ」で現在の我々にも実現可能になる。文字の凄さよ！と語っている。



第104回

全国図書館大会

今年の大会テーマは「市民とともに成長する図書館」図書館専門職の力し。

10月19日(金)～20日(土)、国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されました。

19日は全体会で、基調講演とシンポジウム。

20日は、20の分科会が開催されました。

報告①

第2分科会 大学図書館

「大学サバイバル時代の図書館を考えると」

坂本由喜子

最近、大学入学人口の減少が現実化してきて、大学間の競走、定員割れ、大学再編、大学の統合、大学の倒産などの言葉をみかけますが、なんと、この分科会に出て国立私立を問わず大学図書館もこの荒波に見舞われているという危機感を持ちました。

国立私立を問わず、図書館予算が削減されているため、これに立ち向かわざるを得ない状況のようです。

そして、図書館員一人ひとりが経営の意識を持って図書館の運営に取り組み、さらには外部資金獲得

得の方策を考える必要があるとい
う、なんとも目と耳を疑うような
勇ましい話をたくさん聞いてまい
りました。

以下に、発表されたテーマを書
きます。テーマを見るだけでも、
想像頂けると思います。

1. 早稲田大学と慶応義塾大学の
図書館システムの共同運用
2. クラウドファンディングの始
め方ー筑波大学における導入
事例

3. 東京芸術大学のクラウドファ
ンディングと図書館
4. 跡見学園女子大学図書館所蔵
「百人一首コレクション」の
デジタルアーカイブ化事業で
外部資金を獲得する。
5. 貴重資料をモチーフにしたオ
リジナルグッズの販売ー東北
大学の場合

以上

報告②

青木和子

第17分科会 市民と図書館

開かれた図書館協議会を

つくりよう！

「図書館友の会全国連絡会(図
友連)」が主催する5年目の分
科会は、市民と共に成長する開
かれた図書館をめざすために図
書館協議会を取り上げました。
始めに池上洋通氏(自治体問

題研究所)の基調講演「住民主
権から図書館を考える」

「日本国憲法の基本原則は、
恒久平和の実現、国民主権、す
べての国民の基本的人權を保障
することにある。国民が個人と
して自由に生き、自己実現とし
ての幸福を追求し主体的に動く
ための権利は、基本的生存権、
学習権につながる。

人は生涯にわたって教育を受
ける権利を有し、そのために学

校教育、社会教育がある。社会教
育施設の一つとして図書館があり、
図書館法には国の中央政府と対等
な市町村・都道府県の地方自治政
府により公立図書館を置くことが
出来るとした。

住民参加ではなく住民主権^{ミューニシパリティ}の地
方自治において、憲法と「図書館
の自由に関する宣言」に基づく図
書館と図書館協議会の役割は大
きい。

続いて山口洋氏から図友連によ
る全国の図書館協議会調査結果の
分析と問題提起、活性化への提案
がされました。

「守谷の図書館を考える会」か
らは、指定管理者を導入したもの
の撤回された経緯を、「図書館友
の会・米子」からは、図書館協議
会の公募委員としての活動が、そ
れぞれ報告されました。

②因みに、松戸市では図書館協
議会は未設置です。